



コネクタ用超精密順送金型

未開市場に 売って出る

フィリピン進出

茨城技研社長
堀 二十男氏

度の要求に応える。超精密部品の市場が海外に移る中、2004年にフィリピン・セブ島に進出。14年にはマニラ工場を開設し海外事業を拡大、ノウハウを蓄積してきた。堀二十男社長に今後の戦略を聞いた。

茨城技研は超精密微細加工、金型設計、インサート成形技術で、超小型部品から大型部品まで一貫生産体制で対応する。自動車用部品や家電、通信機器向けに、超高精

日系企業向け取引拡大

ほど進出しており、営業には適したエリアで、取引先も広がった。マニラには自社で進出を決断した。日本での仕事は年々減っており、顧客が進出するマニラで営業をする必要があった。順送金型による超精密プレス部品のほか、インサート成形までできることが当社の強み。進出して1年半ほどだが非常に好調で、売り上げは右肩上がり。14年3月末には工場の増設が完成し、フル稼働に入る。これによりセブ工場とマニラ工場間で年間12億円の売り上げを見込んでいる」

「客先は。日系企業が中心で、自動車部品のほか、家電や通信機器、ゲーム機向けの部品が多い。ベトナムに進出した企業の要望もあり、マニラから部品を送っている。次のステップはベトナムと見ている。顧客からの要望があればどこへでもついていくフットワークの良い企業を目指している」

「技術面の向上は。『世界自動車部品標準規格』ISO/TS16949』の取得を目指している。これで世界の自動車メーカーと取引ができるようになる」